

《小学生の部》

佳作（警察庁交通局長賞）

群馬県太田市立太田小学校

3年 岩田 博都

目線

ぼくの家から小学校までは、歩いて十五分くらいかかります。大きな交差点がいくつかありますが、ほとんど真っすぐな道です。小学校に入る前に、歩道を歩く、横断歩道をわたるときは左右をよく見て手をあげてわたる、など、何回かお母さんといっしょに登下校時にちゅう意する場所をかくにんしたので、交通安全については大じょうぶだと思っていました。

ところが、雨がふったときや習い事があるときにお母さんが車でおくりむかえをしてくれるのですが、その時大じょうぶという気持ちがまちがっていたことに気がつきました。お母さんの車はSUV車という少し車体の高いタイプの車で、その助手せきにぼくはいつもすわります。その時、ぼくがいつも見ている風けいとがらっとかわりました。目線がいつもとちがうのです。小学校に通う友だちよりも高くなり、友だちを見下ろします。歩きで歩道を通っている人たちを左手に、ぼくは車道を行います。車のすぐ左どなりには、同じ時間たいをいそぐ、中学生や高校生の自転車が通ります。歩道を進む自転車は、小学生の列を見ついたり植木などに出くわすと、それらをよけるために車道に下ります。今度は、車道にトラックや大きい車が来ると歩道にもどります。いつも自転車が自分たちの列をよけてくれるのはわかりましたが、こうやって進路を変えているのは知りませんでした。また、車に乗っていると、車からは見えにくいところがあるのが分かりました。運転席からだ、車のすぐ左後ろがよく見えないので、少しこわくなりました。そういえば、交差点の歩道の近くに「左まきこみちゅう意」という立てふだがあったのを思い出しました。それはこのことだなと思いました。

目線を変えてみると、初めてわかることがありました。これからは、歩いている人の目線、自転車に乗っている人の目線、車に乗っている人の目線を考えながら、グリーンベルトを真っすぐ歩く、車の左後ろには近づかず少しはなれたところを通るなどにちゅう意して、交通ルールを守り歩いていきたいです。